

ジャーナリスト 諸永裕司さんが語る

PFAS (有機フッ素化合物) と地下水汚染 多摩地域の



横田周辺で高い濃度

6つの病気との関連が指摘

7月16日、本部教宣部主催の平和共同取材の午後、ジャーナリストの諸永裕司さんから、有機フッ素化合物(PFAS)についての講演を聞きました。今、横田基地及びその周辺で何が起こっているのか、それが多摩地域の人々の健康にどんな影響があるのか、今後何が課題になっているのかを述べていただきました。(文責、見出し共に編集部)

有機フッ素化合物は総称してPFASと呼ばれ、約5000種類あると言われています。水をはじいて油をはじくことが特徴で便利だといわれています。広く使われています。焦

げつきにくいフライパン、傘、長靴、テント、ハンバーカーの包装紙にも入っています。同時に、分解しにくく、蓄積されやすい、くっついて離れない性質があり、なかなか消

えないので「永遠の化学物質」とも言われています。PFASはアメリカの疫学調査によ

り、腎臓がん、精巣がん、甲状腺疾患、妊娠高血圧症、高コレステロール血症、潰瘍性大腸炎の6つの病気との関連が指摘されています。

東京都環境科学研究所が多摩川

の多摩川上流水再生センター

0年に、PFOS、PFOAを規制する水質の目標値が日本

間基地、キャンプ・ハンセン、横須賀基地などで漏出事故が相次いで起こっています。

明確な根拠があるわけでは

ありませんが、私は偶然では

ないと思っています。米国防

省の方針でPFOSなどを

含む泡消火剤は交換しないと

いけなくなったものの、廃棄

するには多額のお金がかか

ります。このため、環境中にそ

のまま棄てたのではないかと疑

っています。そうだとすると、

かなり悪質なことが続してい

るという印象です。

多摩地区には、PFAS

が極めて高い濃度の地点が

広がっています。15物質の

合計値で10000ng

を超えたところ、同100

ngを超えたところを

示したところ(図1)。

PFASの汚染は次のよ

うに連鎖して

います。今は2つを合わせて

10中50ng(ナノグラム)を

超えないことが国の指針です

が、2008年の時点で同1

265ngですから、25倍ぐら

いの濃度だったことになりま

す。

確認できるだけでも15年前

から、横田のモニタリング井

戸でこれだけ高濃度の汚染が

あったということは、日常的

な消火訓練で使われた泡消火

剤が地中に染み込んで地下水

を汚してきたと考えられま

す。

多摩地区では現在、汚染の

ひどい7市の12施設で、地下

水からの取水を止めています

す。いずれも横田基地の東側

に位置している給水所、浄水

所です。ただ、これがすべて

横田基地に由来するものかど

うかは、裏付けられたわけ

はありません。

しかし東京都

は、こうした方々

の健康調査や、多

摩地区での大規模

な血液検査を行な

おうとはしていま

せん。汚れた水を

長期間飲ませ続けてきた東京

都は住民の健康を調べる責任

を負っているはずですが、具

体的な検討はされていませ

ん。今必要なのは、行政の責

任で調査し、横田基地をはじ

めとする汚染源を突き止め、

汚染を除去させることだと思

います。

このところ、米軍がPFAS

汚染に関連して発信するよ

うになったのは、大勢の方々

がこの問題に関心をもち、メ

ディアが報道したことで、慌

てているんだと思います。や

はり私たちが一人ひとりが、

できることをやって、きちんと

声を上げていくことが必要で

はないかと考えています。

※7面に諸永裕司さんの著書

を紹介しています。

東京・多摩地区 有機フッ素化合物の濃度分布

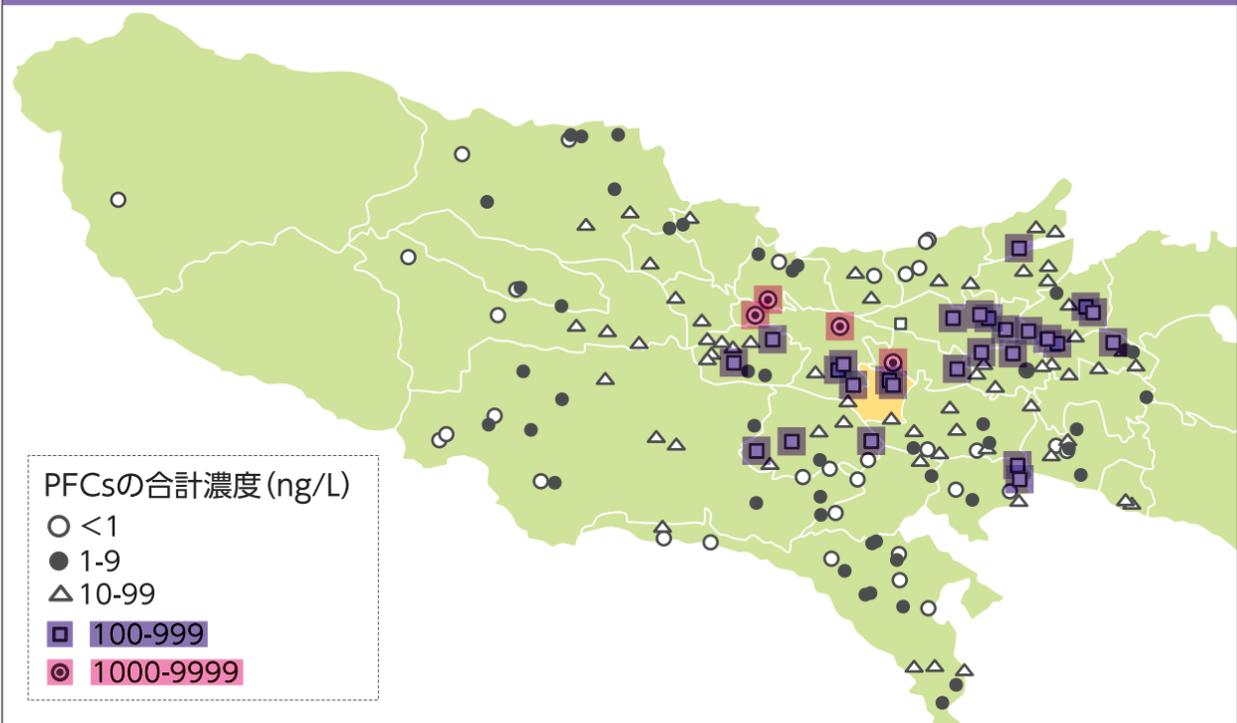


図1 多摩地域の汚染地図 有機フッ素化合物15物質の合計(2007、2008)※PFCsはフッ素化合物の総称 東京都健康安全研究センター「東京都多摩地域地下水の有機フッ素化合物の存在実態調査」

そのまま棄てた疑惑 多額の費用かかるためか

明らかにしていません。消火訓練とは別に漏出事故も起きています。2012年に泡消火剤を貯めていた貯蔵タンクから30000Lが無くなっていることに気がついたので、そう記された米軍報告書を2018年12月に沖縄タイムスがスクープしました。

気になるのは、いま報告されている横田基地での3件の漏出事故は2010年から12年に起きていることです。実はこの2010年は日本国内でPFOSの製造・使用が禁止された年です。また、202

この問題が明らかに なってか ら、米軍は、 2016年 以降、PF OSを含む 泡消火剤を 使っていない とい説明し ています が、いつか ら、どれく らい使っ てきたのかは 明らかになり ません。

多摩地区には、PFAS が極めて高い濃度の地点が広がっています。15物質の合計値で10000ng

を超えたところ、同100ngを超えたところを

示したところ(図1)。

PFASの汚染は次のよ

うに連鎖して

います。今は2つを合わせて

10中50ng(ナノグラム)を

超えないことが国の指針です

が、2008年の時点で同1

265ngですから、25倍ぐら

いの濃度だったことになりま

す。

確認できるだけでも15年前

から、横田のモニタリング井

戸でこれだけ高濃度の汚染が

あったということは、日常的

な消火訓練で使われた泡消火

剤が地中に染み込んで地下水

を汚してきたと考えられま

す。

多摩地区では現在、汚染の

ひどい7市の12施設で、地下

水からの取水を止めています

す。いずれも横田基地の東側

に位置している給水所、浄水

所です。ただ、これがすべて

横田基地に由来するものかど

うかは、裏付けられたわけ

はありません。

しかし東京都

は、こうした方々

の健康調査や、多

摩地区での大規模

な血液検査を行な

おうとはしていま

せん。汚れた水を

長期間飲ませ続けてきた東京

都は住民の健康を調べる責任

を負っているはずですが、具

体的な検討はされていませ

ん。今必要なのは、行政の責

任で調査し、横田基地をはじ

めとする汚染源を突き止め、

汚染を除去させることだと思

います。

このところ、米軍がPFAS

汚染に関連して発信するよ

うになったのは、大勢の方々

がこの問題に関心をもち、メ

ディアが報道したことで、慌

てているんだと思います。や

はり私たちが一人ひとりが、

できることをやって、きちんと

声を上げていくことが必要で

はないかと考えています。

※7面に諸永裕司さんの著書

を紹介しています。

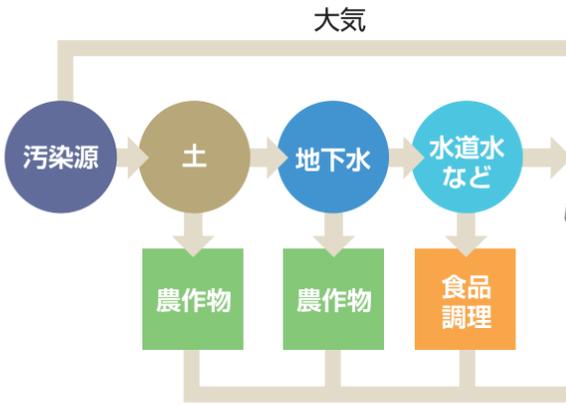


図2 体内汚染のしくみ

多摩地区には、PFAS が極めて高い濃度の地点が広がっています。15物質の合計値で10000ng

を超えたところ、同100ngを超えたところを

示したところ(図1)。

PFASの汚染は次のよ

うに連鎖して

います。今は2つを合わせて

10中50ng(ナノグラム)を

超えないことが国の指針です

が、2008年の時点で同1

265ngですから、25倍ぐら

いの濃度だったことになりま

す。

確認できるだけでも15年前

から、横田のモニタリング井

戸でこれだけ高濃度の汚染が

あったということは、日常的

な消火訓練で使われた泡消火

剤が地中に染み込んで地下水

を汚してきたと考えられま

す。

多摩地区では現在、汚染の

ひどい7市の12施設で、地下

水からの取水を止めています

す。いずれも横田基地の東側

に位置している給水所、浄水

所です。ただ、これがすべて

横田基地に由来するものかど

うかは、裏付けられたわけ

はありません。

しかし東京都

は、こうした方々

の健康調査や、多

摩地区での大規模

な血液検査を行な

おうとはしていま

せん。汚れた水を

長期間飲ませ続けてきた東京

都は住民の健康を調べる責任

を負っているはずですが、具

体的な検討はされていませ

ん。今必要なのは、行政の責

任で調査し、横田基地をはじ

めとする汚染源を突き止め、

汚染を除去させることだと思

います。

このところ、米軍がPFAS

汚染に関連して発信するよ

うになったのは、大勢の方々

がこの問題に関心をもち、メ

ディアが報道したことで、慌

てているんだと思います。や

はり私たちが一人ひとりが、

できることをやって、きちんと

声を上げていくことが必要で

はないかと考えています。

※7面に諸永裕司さんの著書

を紹介しています。